

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・**最終**)

両城中学校区 校番 20 学校名 港町小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力の向上 ① 主体的な学びの推進による学力の定着と向上		基礎・基本の徹底	・国語科・算数科市販テスト「知識・技能」平均到達率は、85%であった。毎週金曜日のスキルタイムで、学んだ内容を繰り返し練習したり、漢字や計算の直しをいねいにさせたりすることで、基礎・基本の力を身に付けることができた。しかし、学年によっては目標値85%を達成することができておらず、前の学年の学習内容など、引き続き基礎・基本の力を身に付けるようにする必要がある。	・授業始めに、その時間に必要な既習事項を振り返る時間を設けたり、授業終わりにその時間に学習した内容が確実に定着したか適応問題で確認したりする。港町小版「全ての教職員で進める授業づくり」のパンフレットをもとに授業で大切にしたいことを全体で共有しながら授業改善を図る。 ・毎週金曜日のスキルタイムの内容を充実させて取り組むことで、基礎・基本の定着を図る。
		思考力・判断力・表現力の向上	・国語科・算数科市販テスト「思考力・判断力・表現力」平均到達率は、81%であった。校内研修において、児童のノートを交流するなど、児童の実態に即して思考力や表現力を身に付けさせる手立てについて教職員で協議し、児童に力を身に付けさせることができた。しかし、題意を理解して問題を解くことが難しい児童がおり、問題を把握させる工夫などがまだまだ必要であった。	・研究授業を通して、思考力や表現力を身に付けさせるような授業展開を全員で考え、効果的なペアトークやグループトークができるようになる。 ・問題把握が難しい児童がいるため、スキルタイムなどで全ての児童が自分から進んで学習に取り組めるように個に応じた手立てを工夫する。
豊かな心の育成 ① 自他を大切にし共に高まり合う児童の育成		自他のよさに気付き、相手を思いやる態度の育成	・2学期末に実施した児童アンケートでは、「自分には良いところがある」が、学校全体では95%であり、目標を達成することができた。 ・振り返り活動や「ほめほめ葉っぱ」の活動では、児童の思いやりの行動や、児童の良さを教師が紹介することで、自己肯定感を高めたままにすることができた。 ・縦割り掃除などでは、低学年を中心に、友達の良いところを見つけていることができていないと振り返っている児童がいる。	・今までの活動は継続しながら、「感謝」をキーワードに縦割り掃除や集会などを行うことで、自他のよさに気付けたり、思いやりの態度を育成したりする。 ・どういった行動や態度が思いやりなのか、友達の良いところのかを教師が教えることで、道徳的な見方を養う。
		目標をもち、主体的に行動できる児童の育成	・2学期末に実施した児童アンケートでは、「生活目標を守る」が96%、「夢や目標に向けて努力している」が97%であり、目標を達成することができた。 ・学習発表会などの行事で目標を立てた後、中間でもう一度目標を確認させることで、意欲を継続させることができた。 ・各委員会では生活目標を決めて実施したが、内容的に振り返ることが難しいものがあった。	・自分の活動に合った目標を立てさせるために、教師が内容を確認したり、必要に応じて支援したりする。 ・生活目標を6年生を中心に見直し、必要に応じて改善する。
健やかな体の育成 ① 社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上		体力の向上	・4月から2m以上記録が伸びた児童は、9月のソフトボール投げの測定では46%であったが、12月のソフトボール投げの測定では66%であった。 ・児童はボール遊びが好きで、外遊びの推奨が効果的であったと考える。また、個人の具体的な目標の設定も効果的であった。	・4月の測定に向けて、次の学年の全国平均値を目標に、投力を伸ばす授業や、体づくり運動の授業と関係づけながら、指導する。
		生活リズムの確立	・3学期の生活リズムばっちり週間では、早寝ができた児童が55%、早起きが毎日できた児童が47%、朝ご飯を毎日できた児童が95%であった。早寝ができた児童が昨年度に比べて減少している。	・生活リズムばっちり週間前、集計項目で特に課題となっている早寝早起きの啓発を朝会や保健だよりを通して行う。児童及び保護者に周知や啓発を実施することで実践意欲につなげる。
		防災教育の充実	・自分が住んでいる場所で起こりやすい災害が分かる児童は89%、災害が起きたときに避難する場所や避難する方法が分かる児童は90%と、1学期に比べて増えている。	・新校舎への通学路が新しくなることを機会に、地域で起こると予想される自然災害や、交通安全について指導を行う。
業務改善 ① 教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備		児童と向き合う時間の確保	・リフレッシュデーや個人研修の時間を設定したため、放課後の時間を確保することができた。 ・成績の時期に短縮日程にしたり、成績入力の時期を早めたりすることで時間に余裕ができた。 ・アンケートをタブレット端末で行うなど、ICT機器の活用を図ることで、時間短縮になった。 ・生徒指導事案が複数発生したため、その児童への聞き取りや家庭と連携をする時間が多くなり、他の児童と関わる時間が確保できなかった。	・引き続き、企画委員会やそれぞれの分掌部会において行事の精選を行い、児童と向き合う時間が確保できるようにする。 ・児童に聞き取りする際は、管理職や空いている教職員が教室に支援に行けるように体制を組む。 ・聞き取りについての研修を実施し、事案が発生した場合でも適切に対処し、的確な指導へとつなげられるようにする。
		長時間勤務の削減	・2学期に生徒指導事案対応等に時間を費やすことがあり、前期の結果を下回った。 ・多くの職員はリフレッシュデーを有効に活用したり、見直しをもって学級事務に取り組んだりして、緊急対応がに時には時間を区切って帰ろうという雰囲気が出た。	